

## メンバーの顔触れに合わせた活動を展開

産業懇談会を紹介する第4回目は、第3木曜と第4水曜の世話人の方がそれぞれのグループの特色や魅力を披露する。貴重な話が聴ける講演や施設見学など多彩な活動ぶりを紹介し、一人でも多くのご参加をと呼び掛けている。

第3木曜グループ

相互理解の場としての楽しい集まり  
今年は女性のメンバーを増やしたい

■設立:1988年12月 ■メンバー数:49人

世話人



平野 通郎

東武不動産  
取締役会長

小林 英三

日本証券金融  
執行役会長

永田 勝志

ダイセーロジスティクス  
取締役会長

「第3木曜グループ」の世話人として心掛けているのは、仕事とは直接関係はなくても、相互理解の場として、楽しい集まりにすることです。また、例会でのメンバー同士のちょっとした会話が勉強になるとの声も聞かれます。講師はメンバーから適任者を選ぶことが多いです。日ごろ馴染みのある方の本音を交えた話だけに、親しみを持って耳を傾けることができるし、質問もしやすく、やりとりも弾みます。

もちろん、外部の専門家のお話も興味深いものがあります。記憶に残る講師の方が何人もいらっしゃいますが、特に最近では、先端医療をテーマに認知症やがん治療の将来はどうなるかとの話は勉強になりました。この講師の方に限らず、例会でお話を伺ってから、非公式に少人数有志で会食の場を設け、同じ講師をお呼びすることもあります。皆さん、喜んで参加されます。小規模な集まりだけに、より話が弾みます。

今後の3木の運営では、会員数を増やすことも重要ですが、あまり大人数になるより、メンバー相互の交流を重視し、出席率を高めたいと思っています。特に、女性の皆さんに入会していただきたいですね。現在も女性メンバーは3人いらっしゃいますが、もっと仲間を誘っていただきたいと願っています。

2020年はコロナ禍で思うように活動できなかった面もありました。そんな中でも十分な安全対策を講じて、食事会を開催したところ、「よくぞ実施してくれました」と喜ばれました。今年はメンバーの方から思い切った提案をいただければと思っています。【平野 通郎】

第4水曜グループ

現役率が高くビジネスのヒント得られる活動  
経営者の課題を共有し、話し合える場に

■設立:1974年11月 ■メンバー数:60人

世話人



長江 洋一

HEXEL Works  
取締役兼代表執行役社長

橋本 政昭

橋本総業  
取締役社長

芳賀 日登美

ストラテジックコミュニケーションR  
取締役社長

「第4水曜グループ」は社長として経営に携わっている方、つまり「現役率」が高いのが特徴です。そのため、講演で扱うテーマはビジネスと直結し、ヒントを得られるようにしています。一例を挙げると、昨年7月には私が話題提供して、新型コロナウイルスのワクチン開発を行っている海外の製薬会社の株価の推移を説明しながら、最先端のワクチン開発の状況をお話しさせていただきました。企業経営はどこかでつながっています。メンバーの皆さんが気付かない視点を盛り込んだ話題を提供し、お役に立てればと思っています。今後は、他のグループで行っているような文化的なテーマの講演も取り上げていこうと考えています。

4水は本音で話せる場であることも魅力です。講演とは別に雑談の中で、「こうした手法を取り入れたら成果が得られた」など、ある意味での自慢話が参考になるようで、それを聞き実施してみた方もおいでです。

有志メンバーで訪れた施設見学で印象的だったのは、新潟の清酒、八海山の蔵元である八海醸造です。この会社は杜氏を正社員として雇用することで品質を維持安定させるなど経営面の話と、酒蔵見学を行っているなど文化の両面で興味深い内容となりました。

私が経済同友会に入会した当時は、「産業懇談会に参加するのが当たり前」と教えられました。現在はそうではないかもしれませんが、産懇で活動しないのは実にもったいないと思います。メンバーの皆さん同士が経営者として抱えている課題を共有し、話し合える場、それが4水だと自負しています。【長江 洋一】